

I

■出題のねらい

数学 I, 数学 II, 数学 A, 数学 B の内容から 2 次方程式, 図形, 平面ベクトル, 確率について基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

全体的によくできていましたが, いずれの問題についても知識が定着していなかったり, 計算ミスと思われる誤答が見受けられました。また, (3) の $0 \leq \theta \leq \pi$ など, 問題文中で与えられた条件はしっかりと使うようにしましょう。

II

■出題のねらい

- (1) 等差数列, 階差数列に関する基本的な事項について問いました。
- (2) 2 次関数とそのグラフに関する基本的な事項について問いました。

■採点講評

- (1) 空所 は, 完答できていない人が見受けられましたが, まずまずの出来でした。空所 では, 直接和を求めることができます。
- (2) 空所 , は, 符号を間違えていた解答がありました。ケアレスミスに注意してください。

III

■出題のねらい

平面上の直角二等辺三角形を用いて，三角関数と微分法の応用について問いました。

■採点講評

全体的に，できていた人とそうでない人が分かれた問題となりました。

- (1) よくできていました。
- (2) 遠回りな導出の解答が目立ちました。線分の長さを θ で表せば，容易に求まります。
- (3) 微分の公式が適切に利用できなかったり，式の整理を間違えたりする誤答が見受けられました。
- (4) (3) が正答できた人はよくできていました。

IV

■出題のねらい

(1) は，等差数列と数列の和に関する基本的な計算。(2) は，指数関数・対数関数を含む不等式について基本的な事項を問いました。

■採点講評

- (1) よくできていました。記号・符号の記述ミスに気をつけて，要求されている内容を正確に答えるようにしてください。
- (2) 概ねよくできていましたが，計算ミスによって差がつく問題でもありました。途中の計算過程を省略せずに記述するなど，ミスが起こりにくい導出手順を身に付けましょう。

V

■出題のねらい

三角形の面積に関連して、3次関数の微分と関数値の増減に関する基本的な知識を問いました。

■採点講評

(1), (2) はよくできていましたが、面積に対して負の値を解とするなど転記ミスや計算ミスが散見されました。また、(3) は、多くの人が正しい方針で解いていましたが、式変形でつまづいている解答が少なからずありました。直交する2直線に関する性質の使い方、因数分解や平方根の扱い方など基本操作を組み合わせて利用できるような練習を積んでおきましょう。(4) は苦勞した人が多かったようです。根拠が不十分なために減点せざるを得ない解答が複数ありました。一方で、三角形の面積について増減表を利用し、極値を確認した人のほとんどが正答にたどりついていました。日頃から丁寧な導出を心掛け、転記ミスや計算ミスが起こりにくい解答が作成できるようにしておくことが重要です。

I

■出題のねらい

サイバー攻撃に関する新聞の記事です。少し難しい英文でしたが、グラフを活用して、適切に理解できるかを問いました。

■採点講評

慣用表現に関する問題□1, □4の正答率が低かったです。□1で, “in response to” の組み合わせを知らなかったとしても “respond to” の用法から推測できたでしょう。□4は, “around-the-clock” を知らなかったとしても, 4つのうち3つの選択肢が同じ意味であることから導き出す, または, 時計 “clock” の周りを回るというイメージから推測することができたでしょう。比較的正確率が高かったのは, グラフから読み取ることができる□5でした。しかし, このような問題の正確率は, もっと高くなることを予想していました。グラフや表, イラストなどを読み取って活用する練習をおきましょう。□8は40%台の正確率でした。

II

■出題のねらい

オーストラリアで絶滅が危惧されている動物に関する英文です。最後まで読まないで正答できない問題を出題しました。また, 並べ替えの問題で, かなり高度な英語力を問いました。

■採点講評

□9は, 辛抱強く解答を探して正答した人が40%以上いました。その一方で, 並べ替えは, 関係代名詞を含む□11, □13が特に難しかったようです。並べ替えの直前の語だけでなく, 直後の語にも注意しましょう。このことが, 正答を導くために必要です。

該当部分の正しい語の並び方は, 次のようになります。

- 1) ④blamed ①on ⑤humans ③who ②have over-hunted
- 2) ⑤scientists ③set out to ②pinpoint ①the scope ④of the extinction
- 3) ③which ⑤sailors ①brought to ④Australia ②on

III

■出題のねらい

ラジオ番組のホスト，電話をかけてくる人，それに答えるゲストの発言を理解する問題です。会話特有の短い文の意味を早く把握し，正答につなげる能力を問いました。

■採点講評

“million”を正しく数値化する[14]は予想通り正答率が高かったです。その他の問題も比較的正答率は高かったです。しかし，“unless”を問うた[16]は難しかったようです。この“unless”だけでなく，“although”，“nevertheless”なども正しく使えるように練習しておくといよいでしょう。[18]，[19]，[20]は難しかったにもかかわらず正答率は低くありませんでした。

IV

■出題のねらい

子供の声を騒音扱いし，条例による規制の対象にするか否かに関する新聞記事を理解する問題です。問題は，すべて文中の空白に入る語や表現を選ぶものでした。グラフを読み取る能力，相対する2つの主張を正しく理解するなど基本能力を試しました。

■採点講評

単純にグラフの数値を読み取る問題[21]，[22]の正答率は，期待に反してそれほど高くありませんでした。文章と文章の関係性を正しく把握する能力を問うたその他の問題は，まずまずのできでした。“hardly”，“do little with”など，否定語(not, never)が使われていないにもかかわらず否定の意味をもつ単語や表現に慣れていれば，正答できたでしょう。

V

■出題のねらい

Taroと旅行者の会話という設定で、場面に合った会話表現を選ぶ能力を問いました。

■採点講評

“Would you mind～?” への応答としての[26] “Not at all”, 「その一方で」を意味する[29] “whereas”, 「最初の左（または右）を曲がる」を意味する[31] “take the first left/right” などの慣用表現は、しっかり身に付けておいてほしいです。この中では、[26]の正答率が最も低かったです。[27], [30]は選択肢によく似た文章が並んでいたにもかかわらず、よくできていました。

講評

I

出典 岡田暁生「音楽の聴き方―聴く型と趣味を語る言葉」

「言葉にしにくい芸術である」という特性を持つ音楽が、「言葉を超越した存在である」として聖化された背景を、ドイツ・ロマン派の詩人の価値観に基づいて説明しています。ロマン派の価値観と超越的世界との関係を正確に把握することがポイントです。以下では、説明が必要と思われる設問のみ解説しています。

問1【漢字問題】（解答番号は①～⑦）

画数が比較的少ない漢字二字の熟語ですが、前後の文脈から適切な語義を読み取ることが必要になります。その点がやや難しかったためか、全問正答した受験者はいませんでした。

問3【前後の文脈から適語を選ぶ問題】（解答番号は⑨～⑫）

空欄①は「どこからが対象なのかの区別すらつかなく…」が、空欄②は「禁忌の意識」や「畏れ」などがヒントです。空欄③にはLieder ohne Worteを踏まえた語を、空欄④は「神」を意識した語を選択します。正答率はそれぞれ47%、54%、79%、51%でした。

問4【前後の文脈から適語を選ぶ問題】（解答番号は⑬）

直前に「音楽は…魔術である。」と記され、「魔法にかかるために人は…合理的な思考をいったん停止しなければ…」と文が展開することに注目します。正答率は51%でした。

問5【前後の文脈から適切な文を選ぶ問題】（解答番号は⑭）

音芸術のある種の特性をいったん認めながら、その神秘の強調は近代からという文脈の把握が重要です。末裔という語がキーワードになります。正答率は28%でした。

問7【内容理解に伴う傍線部の説明問題】（解答番号は⑯）

音楽の聴き方や語り方の「強い縛り」となっているのは、「沈黙」を聖化しようとする考え方であるという文意が理解できているかどうかポイントです。正答率は16%でした。

問8【内容理解に伴う傍線部の説明問題】（解答番号は⑰）

音楽と宗教を、どのような観点から比較し、どのように評価しているかを問う問題です。「音楽が世界を救う」という重要な記述があります。正答率は54%でした。

問11【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑳）

近代のロマン派の芸術家は、音楽を聖化し、世界を救済する絶対的存在として捉えたことが本文の主題です。①当時の一般的な評価であって普遍性ではありません。④時代の枠組みの理解に誤りがあります。⑥ロマン派詩人と音楽史観の正当性については本文では言及されていません。正答率は44%でした。

II

出典 酒井邦嘉「科学者という仕事—独創性はどのように生まれるか」

独創性はどのように生まれるかという問題意識の下、科学者の仕事についての考えをまとめた本です。わかりやすい言葉で論理的に書かれた文章ですから、容易に文意をつかめるはずです。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は21～25）

正確に書けている答案は少なく、全問正答した受験者の割合は全体の7%でした。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は26・27）

空欄甲は直前の「多様性の少ない」が、空欄乙は小見出しの「孤独の喜び」がヒントです。正答率はそれぞれ49%、51%でした。

問3【空欄補充問題・前後の文脈から適切な言葉を選ぶ】（解答番号は28）

空欄の前後の内容を読めば正答は容易に導けます。正答率は86%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は29）

傍線部Aの直後の文をよく読めば③は誤答であるとわかるはずです。正答率は58%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は30）

皆が行おうとする、成果を出しやすい仕事の比喻ですから①は不正答。正答率は72%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は31）

直後の諏訪内晶子氏の言葉がヒントになるでしょう。正答率は65%でした。

問7【言葉の意味を理解して該当しないものを選択する問題】（解答番号は32）

物事が思いどおりに進行するという意味の「流れに棹さす」が正答。正答率は56%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は33）

「自己の内的要求に耳を傾ける」を正確に読み取れば、簡単です。正答率は65%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は34）

誤答の①を選択した受験者が散見されましたが、「個人の力が弱いため集団による研究に負けてしまい」が本文の内容に合いません。正答率は42%でした。

問10【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は35）

本文中の「独創性から逃避しているのではないだろうか」がヒントです。⑥を選択した受験者もいましたが、中心的な話題はモラトリアムよりも独創性の話です。正答率は51%でした。

問11【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は36）

誤答として⑤や⑥を選択した受験者が多数いました。組織の調和や独創性の芽についてももちろん言及されていますが、ここでの中心的なテーマが日本と西洋の違いであることは本文をよく読めば気づくでしょう。正答率は28%でした。

問12【内容合致問題】（解答番号は37）

完答ということもあり正答率は7%でした。④・⑦を選択している受験者がいました。孤独のとらえ方に幅があることについて「日本と異なり」とまで本文では言及していないため、④は不正答です。また、「他人に左右されず決して群れない人材を大切にする必要がある」とまで著者は主張していないため、⑦も本文の内容に合致しません。②・③・⑤・⑥・⑧で行われている説明が本文の内容に合致しないことも、本文をよく読めば確認できます。